

トラヴェルソ・デュオ《イネガリテ》にとって、ジャック・オトテールは特別な作曲家です。二人がまだブリュッセル王立音楽院の同級生になったばかりの頃、初めて一緒に演奏した曲の一つが、J. オトテールの二重奏組曲でした。ともに留学を終え、日本で《イネガリテ》として活動を始めてからも、オトテールの作品はプログラムの中に頻繁に取り入れてきました。

バロックの音楽に適した横笛（バロックフルート／トラヴェルソ）は17世紀後半、フランスの宮廷で流行し始めますが、暫くの間、この楽器用の作品はありませんでした。18世紀に入ると、トラヴェルソのための作品が作られ始めます。その最初期の作曲家の一人が、トラヴェルソの名手J. オトテールです。彼の作品は、黎明期のものでありながらすでに非常に完成度が高く、この笛の魅力を最大限に引き出すように作られています。

そんな先駆者かつ巨匠であるオトテールの音楽に魅了され続けてきた《イネガリテ》が、彼の生誕350年を記念して企画したのが本公演です。今回はブリュッセル時代の仲間二人の力を借り、J. オトテールのトリオを中心に演奏いたします。通奏低音付き独奏曲や、《イネガリテ》の大切なレパートリーである二重奏組曲も併せてお聴きいただきます。J. オトテールの音楽の豊かな世界を、どうぞお楽しみください。

Inégalité

トラヴェルソ・デュオ 《イネガリテ》

ブリュッセル王立音楽院古楽器科の同級生である、相川郁子と野崎真弥によるトラヴェルソ（バロックフルート）のでこぼこデュオ。二人は同音楽院で2012年より頻繁に共演してきたが、卒業・帰国などを経て2017年2月に正式にデュオを結成した。デュオ名の「Inégalité（イネガリテ）」はフランス語で「不均等、凹凸」を意味するが、フランスバロック音楽の演奏習慣の一つである「不均等奏法」を示す言葉でもある。近年は野崎がヴィエル（ハーディガーディ）に持ち替えての、トラヴェルソとヴィエルの二重奏もプログラムに取り入れている。

折原麻美

国立音楽大学音楽文化デザイン学科（音楽学）卒。在学中ヴィオラ・ダ・ガンバを始め、卒業後渡欧。ブリュッセル王立音楽院古楽器科にて学部、修士、研究科を修了。ヨーロッパ各地の音楽祭出演等で研鑽を積み、2018年に拠点を日本に移す。ルネサンス～バロック音楽を中心に、世界各地の民謡、舞曲、童謡等ジャンルにこだわらず楽器の魅力を発信。AYAMEアンサンブル・バロック、デュオ・ルーリーのメンバー。アイゼナハ音楽院講師。www.oriharaasami.com

名越小百合

歴史的鍵盤楽器奏者として数々の国際コンクールの入賞を果たした後、フォルテピアニストまたチェンバリストとして現在ベルギーと日本とを行き来しながら演奏活動を行っている。通奏低音奏者としてはLes Muffatti, Traffik klassik, AYAMEアンサンブル・バロック等の古楽アンサンブルの公演に参加し数多くの音楽祭に出演。ブリュッセル王立音楽院にて伴奏員を務める。2022年に発売されたオリジナル楽器使用のA・エーベルルのCDは、音楽雑誌「MUSICA」にて5つ星を獲得するなど高い評価を受けている。